

医療安全管理部・リハビリテーション科・部：転倒・転落発生率の減少

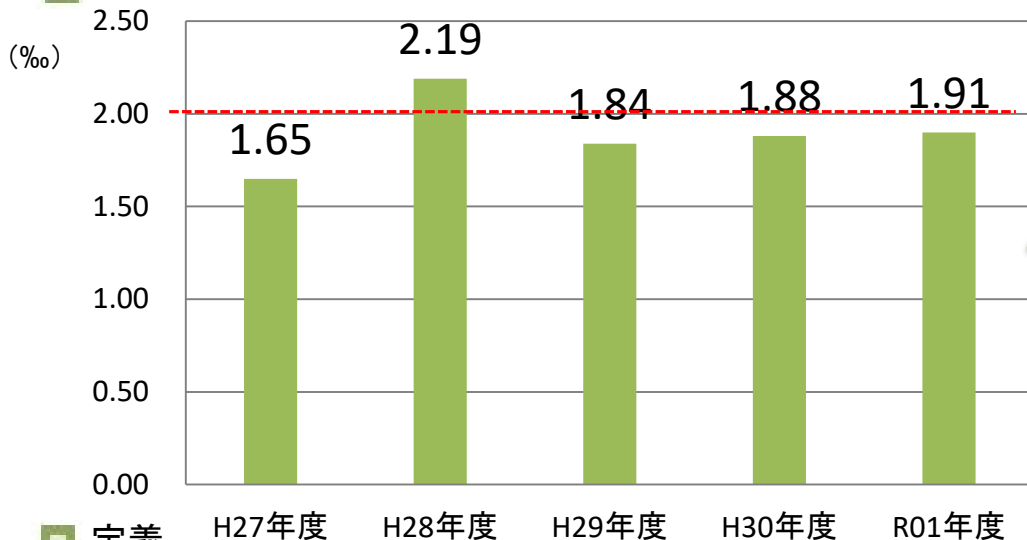
■ 解説: **outcome** 指標

入院中の転倒・転落は有害事象であり、医療安全管理上その予防が大きな課題です。

院内での転倒・転落は、骨折などの合併症とともに死亡、入院期間の長期化、転倒を恐れることによるADLの低下につながります。転倒・転落のリスクを的確にアセスメントし予防対策を講じるため、院内では多職種からなる転倒転落対策チームが積極的に活動しています。

(※ADLとは、食事・排泄・入浴等、日常生活を営む上での基本的な行動のことです。)

■ 当院の実績



■ 定義

入院延べ患者数に対する転倒・転落の発生件数の割合(‰)

■ 算式

分子：入院での転倒・転落発生件数

分母：入院延べ患者数

■ 参考文献・学会ガイドライン等

厚生労働科学研究班報告書：平成16－18年度「医療安全のための教材と教育方法の開発に関する研究」；別冊『転倒・転落対策のガイドライン』

《自己点検評価》

平成28年度に転倒・転落率が2.19%まで一旦上昇しましたが、大きな要因であった複数回転倒・転落者への対策として、多職種によるカンファレンスの開催や的確なアセスメントの実施を行い、その後の転倒転落率は低下傾向となりました。

令和元年度に転倒・転落リスクのアセスメントシートの改訂を行い、適切に評価ができるようになりました。

